

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

体験活動推進プロジェクト「北海道防災キャンプ」

北海道教育委員会

## 【事業のポイント】

- 北海道は、地震や津波のほか、火山災害、水害、雪害など、これまで多くの災害と向き合ってきた経験を有しており、本事業では、過去に地震や津波により大きな被害を受けた道央太平洋沿岸地域で防災キャンプを実施した。
- 防災キャンプでは、次代を担う青少年防災リーダーの養成のほか、住民が主体となった地域防災体制の確立を目指した。



## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

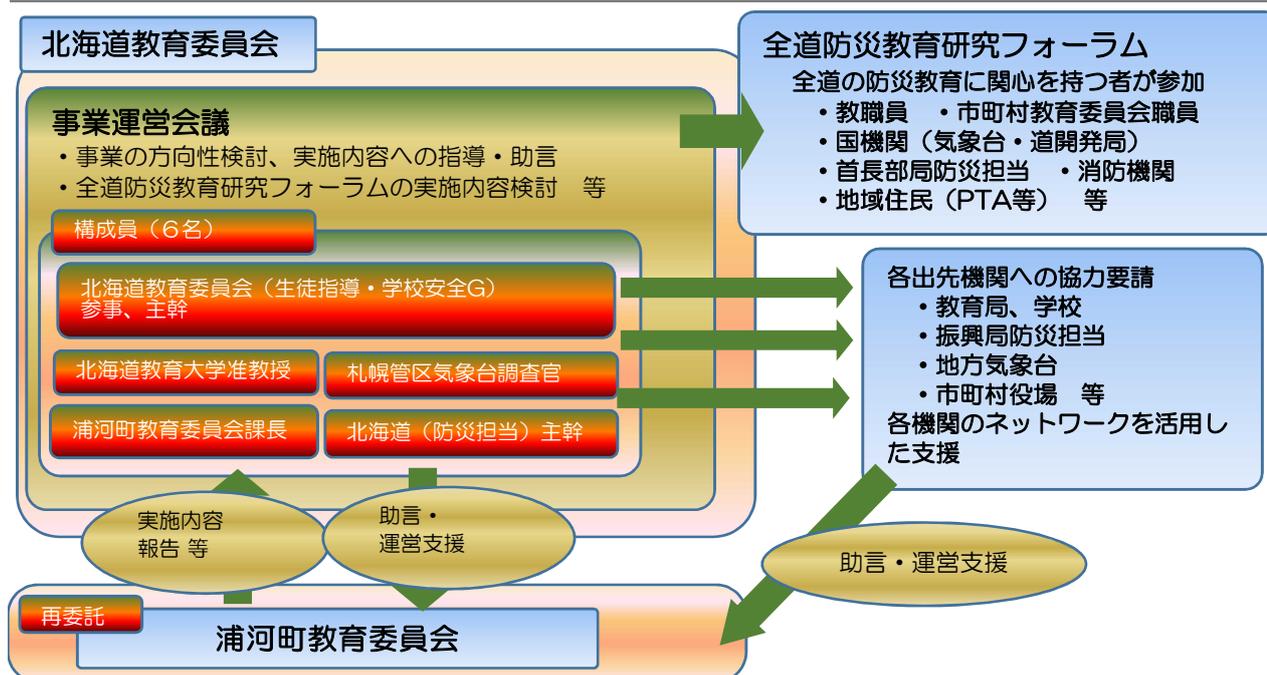
北海道は、太平洋沿岸部を震源とする巨大地震発生時に、大きな揺れと津波による被害を受ける可能性が高いほか、有珠山、樽前山をはじめとする多くの活火山を有しており、これまでの想定を超える災害に備える必要がある。また、平成25年3月には、道東地方を中心に暴風雪に見舞われ、多くの尊い命が奪われた。このため、各地域において、地域の実情に応じた災害に備え、災害発生時に適切な対応や避難行動をとるための意識を高めるとともに、人口減少や超高齢化が進展する地域において、住民同士の絆を深め、住民主体の防災体制を構築する必要がある。

### (2) わらい

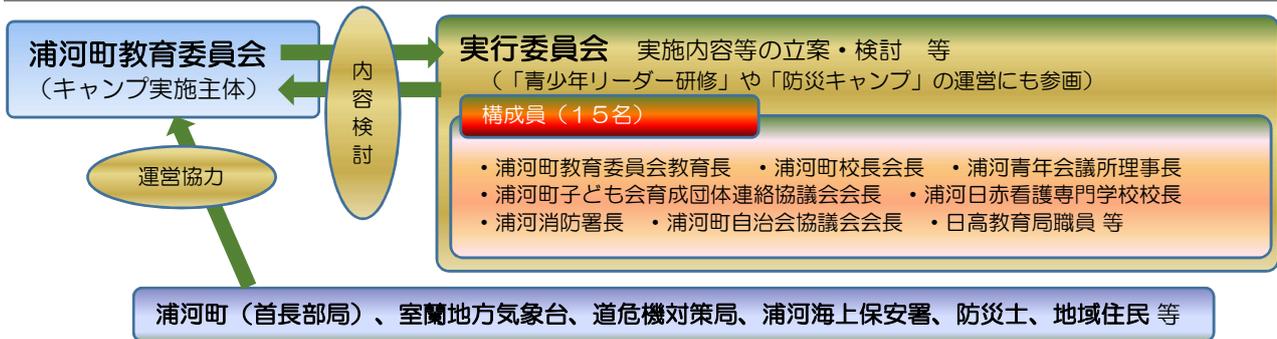
「北海道防災キャンプ」の実施を通して、地域住民や児童生徒の防災意識を高めるとともに、学校、家庭、地域が連携して、これからの防災教育の中核を担う高校生などの青少年リーダーを養成し、地域における防災体制の確立を目指す。また「全道防災教育研究フォーラム」を開催し、学校や地域における防災教育や地域の防災活動について特色ある取組の普及に努め、道内各地域における防災教育や防災活動の充実を図る。

## 2. 事業概要

### (1) 運営体制



## (2)開催実績



月 日	内 容
5月下旬	事業日程の調整及び運営体制の検討
6月24日	第1回事業運営会議(防災キャンプ実施内容検討)
7月7日	第1回浦河町防災キャンプ実行委員会
7月19日	浦河町防災キャンプ推進事業 第1回防災・ボランティア青少年リーダー研修会
7月31日	第2回浦河町防災キャンプ実行委員会
8月1日	浦河町防災キャンプ推進事業 第2回防災・ボランティア青少年リーダー研修会
8月1日～3日	浦河町防災キャンプ
9月4日	第2回事業運営会議(全道防災教育研究フォーラム事業概要検討)
12月3日	全道防災教育研究フォーラム開催
12月3日	第3回事業運営会議(事業実施内容の総括)

## 3. 防災キャンプ実施概要

### 【浦河町防災キャンプ】

#### (1)運営体制

主 催：浦河町教育委員会

主 管：浦河町防災キャンプ実行委員会

協 力：北海道、北海道教育庁、北海道教育庁日高教育局、室蘭地方気象台、陸上自衛隊静内駐屯地第7師団、浦河海上保安署、浦河赤十字看護専門学校、北海道浦河高等学校、株式会社ムラカミ、浦河町、日高東部消防組合浦河消防署、浦河青年会議所、浦河町社会福祉協議会、浦河町自治会連絡協議会、浦河町子ども会育成団体連絡協議会

#### (2)実施内容

##### 【8月1日(金)】防災キャンプ1日目

- 開会式
  - ・主催者挨拶、スタッフ紹介など
- オリエンテーション
  - ・心得、班紹介など
- 講義「浦河町の自然災害について」
  - 講師 室蘭地方気象台職員
  - ・浦河町の気象や過去の歴史から津波を学ぶ
- フィールドワーク・講話
  - 講師 防災士 三島信男氏
  - ・津波の際の防潮堤内の扉を学ぶ
  - ・各班それぞれテーマをもって町探索を行う
- 体験活動1「身近なもので明かりを確保しよう」
  - 講師 浦河青年会議所
  - ・油を使ったランタンづくりと簡単濾過機を作成する
- 非常食体験
  - 講師 太陽工業株式会社 依藤敦志氏
  - ・水も火もない状況で、温めて食べられる食品を体験する



津波の仕組みを学ぶ



ランタンづくり

- 講話「防災グッズの活用について」・「防災のために用意するもの」  
講師 太陽工業株式会社 依藤敦志氏  
講師 防災士 澤谷英勝氏  
・実際、家庭で用意しているものを紹介する
- 体験活動「段ボールで寝床の準備」  
講師 株式会社大和パッケージ  
・実際に仕切りを組み立て寝床の作成を行う
- 振り返り  
・グループごとに振り返りを行う



段ボール寝床づくり

### 【8月2日(土)】防災キャンプ2日目

- 体験活動「火おこし体験」  
・火おこしを行い、おこした火を使って朝食の調理する
- 講義・演習「「防災図上訓練(DIG)」」  
講師 日高東部消防組合浦河消防署職員  
・図を使って避難時の訓練
- 体験活動「海上の防災の役割」  
講師 浦河海上保安署職員  
・海上保安の役割と海上船の体験航海
- 体験活動「炊き出し・配給体験」  
講師 陸上自衛隊静内駐屯地第7師団  
・災害時の炊き出しと配給作業を体験する
- 講話「気象等の知識、自然災害と避難」  
講師 気象予報士 菅井貴子氏  
・気象のお話と自然災害についてのお話
- 体験活動「ケガへの救急対応」  
講師 日高東部消防組合浦河消防署職員  
・ケガに対する応急処置の方法を学ぶ
- 夕食  
・配給作業を体験する
- 振り返り  
・グループごとに振り返りを行う



火おこし体験



炊き出し・配給体験

### 【8月3日(日)】防災キャンプ3日目

- 朝食  
・おにぎりづくりを体験する
- 全体振り返り  
・グループワークによる学習内容の振り返りと全体での発表を行う
- 閉会式  
・修了書授与など



各班からの発表

【参加者119名(小学生27名、リーダー13名、22機関団体79名)】

### 【全道防災教育研究フォーラム】

(趣旨)

災害時における危険を予測・回避し、適切かつ安全に行動できる能力を児童生徒に身につけさせる安全教育の充実と、学校、家庭、地域が連携して児童生徒の安全を確保する体制や地域のネットワークづくりの推進に資するとともに、研修成果の普及啓発を通して全道の防災教育の充実を図る。

■平成26年12月3日(水)

- 13:00～ 開会
- 13:10～ 基調講演「『みんなの力』を高める防災教育」  
講師 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター  
特任助教 定池 祐季 氏
- 14:20～ シンポジウム「新たな可能性を生む防災教育の実践」  
シンポジスト 浦河町教育委員会社会教育課長 砂子沢 登 氏  
厚岸町教育委員会生涯学習課生涯学習係長 三浦 博哉 氏  
奥尻町立青苗小学校長 石澤 修介 氏  
助言者 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター  
特任助教 定池 祐季 氏
- 16:00～ 情報提供  
情報提供者 札幌管区気象台総務部業務課調査官 榎本 弘 氏  
北海道総務部危機対策局危機対策課主幹 木戸 正典 氏  
北海道立教育研究所研究研修主事 山田 圭介 氏
- 16:20～ 講評 北海道教育大学教育学部札幌校准教授 今 尚之 氏



基調講演



シンポジウム



情報提供



資料の掲示

※教育関係者のほか、国や道、市町村の防災担当者等、110名を超える参加があった。

#### 4. 普及啓発の実施概要

- ・防災キャンプ実施の様子を撮った写真や参加者及びボランティア学生の成果物を浦河町総合文化会館に掲示した。
- ・北海道教育委員会のHPIに、全道防災教育研究フォーラム開催案内を掲載した。
- ・全道防災教育研究フォーラムにおいて、基調講演や各学校地域の防災教育実践発表を含めたシンポジウム、情報提供などをとおして、今日的な防災教育の在り方について、普及啓発を図った。
- ・北海道教育委員会のHPIに今年度の実施内容や成果を掲載した。
- ・北海道庁のブログ「超!!旬ほっかいどう」で防災キャンプの内容を紹介したほか、「ほっかいどう防災教育協働ネットワークメールマガジン」に防災キャンプの事前周知や事後の成果を掲載した。

#### 5. 成果と課題

##### (1) 事業成果

- ・防災キャンプの実施においては、防災にかかわる地域の多様な機関団体の参画を得て、沿岸部と山間部が混在する地域の特性を考慮した防災教育プログラムと新たな地域のネットワークを構築することができた。また、災害時の避難所における、地域の子どもたち(高校生等リーダーを含む)のはたす役割を明確にし、防災体制の基礎づくりをすすめることができた。
- ・防災キャンプ実施後には、札幌管区気象台と北海道による協働プロジェクトとして、地域住民や消防署、役場の防災担当者等が参加する研修会を町で実施することができた。
- ・「全道防災教育研究フォーラム」においては、札幌管区気象台後援のもと、北海道教育委員会、札幌管区気象台、北海道の防災担当部局の3機関がそれぞれのネットワークを活かし、教職員、保護者に加え、大学、国の機関、首長部局防災担当、消防関係機関等に広く周知したことにより、110名余りの参加を得て、防災キャンプの普及啓発を広く行うことができた。

## (2) 事業運営上の課題・留意点

- ・北海道(危機対策局危機対策課)がとりまとめた防災教育推進の方向性として、「幅広く各層に防災教育が浸透し、自助・共助・公助の連携する社会を目指した、連携協働の広がり世代間の継承」を共有理念としていることから、より多くの機関団体と幅広い世代が参画する工夫が必要である。
- ・各地域でこれまでに経験のないような大規模な自然災害が起きており、適切な対策や対応のノウハウを蓄積することが必要となっている。特に、近年、道東エリアを中心に多発している暴風雪への対応が喫緊の課題となっている。

## (3) その他

北海道では、平成27年度も地域の自然体験活動を促進していく視点を加えた防災キャンプの実施を予定している。これまで、火山噴火や地震、津波を想定した防災キャンプを実施してきたが、近年、道東エリアを中心に多発している暴風雪を想定していた事業を構築していきたいと考えている。

## 6. 団体プロフィール

北海道教育委員会

所在地: 札幌市中央区北3条西7丁目

北海道は、179(35市、129町、15村)市町村(札幌市を含む)から構成されており、人口約546万人(H25国勢調査)の自治体である。

また、平成23年度の道内総生産は、18兆2631億円と国内総生産の3.7%を占めており、全国8位となっている。総生産の産業別構成比は、第一次産業が3.7%、第二次産業が15.5%、第三次産業が80.4%と、全国平均と比べ、一次、三次産業の比率が高く、二次産業の比率が小さい。

